

## 農学アカデミー会報の発刊にあたって

農学アカデミー会長 佐々木 恵彦

農学アカデミーもようやく会としての形も整い、活動をはじめることができました。会員の皆様の献身的なご活躍とご努力に感謝します。今後、NGOとして、農学全般を考える会にしていきたいと思っています。世界的にみると、先進国のアカデミーはほとんどがNGOです。しかし、わが国においては、科学界全体を包括するNGOのアカデミーは存在していません。日本学士院がわが国の科学アカデミーであると言われていますが、国の機関であり、会員の数も少なく、アカデミー活動には制約があります。一方、日本学術会議がアカデミー活動に力を入れていますが、やはり、国の機関であり、世界の先進国における科学アカデミーとは異なっています。こうした世界的な傾向を受けて、わが国でも、学術会議の第5部を中心に工学アカデミーが結成され、活躍していますし、第7部では、医学関係のアカデミーが出来ています。

農学関連の研究分野においては、農学に関する学部の学部長で組織する学部長会議がありますが、これには私立大学の農学関連の学部長は入っていません。一方、農林水産技術会議傘下の各研究場所の間には、場所長会議がありますが、農林水産省の内部組織です。さらに、日本学術会議には、農学関連の研究代表者を集めた第6部がありますが、全員で30名、農学全体を代表していることにはなりません。それぞれの組織が関連を持たずに独立し、お互いの連絡はほとんどないのがこれまででした。今回、農学アカデミーを設立した目的は、農学関連大学または学部、農林水産省の技術会議および研究場所、学術会議第6部などに関連する農学の代表的な研究者に参加をお願いし、農学全体を見渡せるNGOの組織を作り、お互いに連携できるようにすることでした。このような組織を作ることによって、工学、農学、医学の3分野にNGOのアカデミーが出来たことになります。将来、学術会議と連携を保ちながら、さらに、分野を理学、文学、経済学、法学などに広げて、日本の科学アカデミーとして発展したいものです。

農学アカデミーはその活動の手始めとして、会報を発行し、会員の皆様に逐次会の活動をお知らせすることにしました。

農学アカデミーの将来の発展を祈念して、日本学術会議の第17期会長、吉川弘之先生にお願いして、「農学アカデミー会報」という表題を揮毫していただきました。将来、この会報が充実し、活動報告ばかりではなく、色々な問題を論議する場になることを期待しています。